

ほのぼの

第 5 1 号

平成 3 1 年

3 月

発 行

信行寺門信徒会

神戸市須磨区戎町 1 - 2 - 3

TEL. 0 7 8 - 7 3 2 - 5 2 0 9



「人間と動物」

住 職

近年、児童虐待が絶えません。父親が十歳の女の子を虐待の末、殺してしまうという悲しい事件が報道されました。「しつけ」だったと父親は言いはり、反省の言葉はないそうです。自分の思うようにならないことを抱えるとき、ストレスがたまり、弱者に感情をぶつける。暴力をふるうこともあります。これは動物の本能かもしれませんが、我が子を殺すような「しつけ」はどこにもありません。

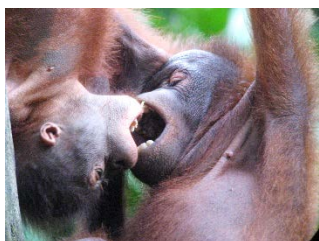
人間を動物のような境涯で終わらせないために、阿弥陀さまの救いがあり、仏さまの教えが伝えられてきました。教えにあわなければ人の世の生きる基準がわかりません。教えてもらうことによって人間は成長する。それは自分にはない智慧をもらうからです。

せっかく人間の世界に生んでもらった「いのち」です。動物で終わっては悲しすぎます。自分にも周りにもつらいことです。「宝の山にいておりながら、手をむなしゆうして帰ることだけはしてくるなよ」と仰せ

られる身を切るような声が響いています。

動物は、感情のままに生き、「食べて、寝て、子供を育てる」だけでその一生を終えます。人間も地球上の動物分類では哺乳類の「ヒト科」に属する動物です。同じ仲間にはゴリラ、オランウータン、チンパンジーがいます。その中でチンパンジーと人間の違いは、全遺伝情報（ゲノム）の上でみると、1%か2%のわずかな差ではないそうです。地球上で一番優れていると自負してもその程度の差しかありません。ただ身体の大きさと脳との比率が他の動物に比べると、脳の大きさが進化の過程で他の動物より格段に大きくなり、それによって、言葉と文字を作り、手を使って道具を使うことができるようになりました。

そして、他の動物との文化レベルの差が顕著になったようですが、動物としての本質は変わっていません。もしかしたらむしろ悪質化しているかもしれません。



私たちも動物ですから、生きるために食べます。しかし、生きるために食べておりながら、死んでいきます。食べても食わなくても死ぬ。生・老・病・死の現実からは逃れられないことを知るべきです。その上にさらにこれを超えていく生き方を教えてもらいましょう。「食べて、寝て、子供を育てて終わる」ではなく、「食べて、寝て、子供を育て、阿弥陀さまと同じ仏に成る」という生き方です。

特別なことをするのはなく、普通に生活するままで仏に成っていける道が開かれています。親鸞聖人が私たちにお伝えくださった浄土真宗は、お念仏のお導きを聞き、お念仏を申して生き抜いていく生活です。欲と怒りから離れることのできない生活を私はしています。自分の思い通りにならない時やクレームをつけられた時などにはイライラします。阿弥陀さまは、このような現実のわたしに「そうあってはならない」とし、私の全てを引き受けてこれを超えてゆく道を歩ませてくださいます。

南無阿弥陀仏



念仏奉仕団

石田 智子

やっと十回目の参加となりました。家族の協力やまわりの環境が整って、ようやくです。前日に関東煮を仕込み、当日の朝に風呂の準備をして出かけています。

お寺にお参りさせていただくようになって、早二十年を超えましたが、泊りがけの行事にはなかなか参加できなかった私でした。数年前に一度だけでしたが、別の機会を設けて、実家の両親にもご晨朝参りを誘って一緒に行きました。唯一の親孝行でした。

今回は、八人（今までで最少参加人数）で参加しました。御影堂の畳拭きや百華園（ご門主のお庭）での庭掃除などです。ご奉仕といっても、全国各地からの人々とお話することで多くの学びがあります。それも楽しいことです。



また、ご門主ご臨席のもと、記念写真を撮って、抹茶の接待もありました。閉会式で私と中川さんが表彰されました。中川さんは十五回目で、頼りになる先輩です。その後、皆さんと一緒に美濃吉で御馳走していただきました。帰路に着く前に、東本願寺を参拝しました。西本願寺と違った雰囲気もあって壮大な感じがしました。

いっとうなるかわらない【今】を大事にして、家族に感謝しながら、また御本山にお参りたいと思います。



中川さん
参加回数 15 回



石田さん
参加回数 10 回



初法座

一月五日に恒例の初法座が賑やかに勤まりました。今年も美味しいお食事を有志の方々が用意してくださいました。素晴らしい年の始まりにふさわしい、色とりどりの御馳走が並びました。心より感謝いたします。



す。お陰さまで五十名を超える人数となり、お参りの方々も互いに打ち解けて、楽しい年明けの法座となりました。



一時からのお勤めと住職の法話に続き、本年は門信徒会の木下雅恵さんとユニットを組んで活動をされている「ティーブレイク」の皆さんに演奏をしていただきました。木下さんは、信行寺で仏教讃歌も歌ってこられました。この度は、皆さんに喜んでもらえるようにと演歌から懐かしい歌謡曲、英

語のポピュラーソングなど、多様なジャンルをたっぷりと準備して下さいました。全員に歌詞カードを配り、皆さんで手話を交えて合唱するなど、楽しいひとときとなりました。

核家族が多くなり、家庭の在り方が多様な現代において、このように大勢でテーブルを囲むことは貴重なことです。皆さんと飲んだり、食べたり、歌ったり、そしてお喋りして笑い合ったりすることは、私達の健康の源です。阿弥陀様の前で、毎年このように集えることはなんとも有り難く幸せなことです。一人ではとても出来ないことも、皆さんと力を合わせることで成し遂げられます。そして、そこには喜びがあり、また会いたいと思う出会いがあります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



蓮音 【ハスノネ】

副住職

浄土真宗本願寺派神戸西組の初の試みとして、音楽イベント「蓮音」が二月二十三日に信行寺で開催されました。普段なかなかお寺に足が向かない方でも気軽に来て、楽しく、有意義な時間を過ごしていただきたいと音楽



ライブをお寺ですることになりました。西組の住職様方のご尽力のお陰で、うれしいことに予想を超える大盛況となりました。老若男女一五〇人を上回る来場となりました。

今回のイベントは、長年私が参加している「デワチェン」というバンドも出演をさせて頂きました。私達は、最初に正信偈の「帰命無量寿如来 南無不可思議光」から始まり、最後は恩徳讃で締めくくるという、いつものライブとは違うプログラムにしました。民族楽器の演奏に合わせて「如来大悲の・・・」と私が歌いだしますと客席からもお寺で親しんでおられる方々の唱和される声が礼拝堂を包み込むように響き渡りました。ライブの後、いろいろな方が最後の浄土真宗の歌がすごくよかった、と言って下さいました。また、浄土真宗になじみのない若い世代の方達も恩

徳讃を気に入ってくれたようでした。私達デワチェンの他にも、兵庫区の若手僧侶による雅楽の演奏がオープニングにあり、雅楽の中の三管とよばれる龍笛、篳篥、鳳笙という楽器の奏でる独特な音色が三位一体となって妙なるハーモニーを醸し出していました。日頃も法要の際には、CDで雅楽をながしていますが、やはり生で聞かせて頂く音色の美しさは格別であります。また、龍谷大学大学院生の僧侶グループ「ライフソングス」は、若さ溢れる元気な歌声で、曲の合間には法話や楽しいトークを交え、皆さんを盛り上げてくださいました。

今回のイベントには、本当にたくさんの方々が集い、そして沢山のご縁がありました。普段からお寺や浄土真宗に縁のある方はもちろん、音楽が好き、面白そうないイベントだから、お寺でライブって雰囲気よさそう、など初めてお寺に来られた方も多かったようです。音楽には人と人を結びつける力、心を前向きにさせてくれる力があります。音楽を通してお寺とご縁がますます深まり、また生まれてくることを切に願っております。



写経の会

信行寺の礼拝堂で「写経をしましう！」とスタートしてから一年が経ちました。何事も続けることは素晴らしいことですが、自分一人で続けることはなかなか難しいものです。

雨の日も寒い日もかんかん照りの日もありました。そんな日も変わらない笑顔で参られるお二人に代表で話を伺いました。



新谷さんは昨年「阿弥陀経」を写経されました。毛筆書きは心が落ち着くそうです。一字一字を深く味わいながら黙々と進められていました。もともと字を書くことが好きで、いつか写経をしてみたいと思っていたそうです。その思いを実現できた今、熱心に新しい目標に取り組んでおられます。お経の説明を受けながら写すことで、意味も少しずつ理解され、楽しんで下さっております。蘆田さんは、東日本大震災の義援金募集活動の一環で写経されたことが始めるきっかけでした。日頃の暮らしの中では、集中することが少ないと感じておられ、今は

ただひたすら静寂の中で字を書くことに喜びを見つけられているようです。またお経の文字一つ一つと向き合うことで、そこから意味を感じて、よりお経に親しみをもてるようになったそうです。

現在は、都合がついた時に参加される方を含めて毎回五・六名の参加です。皆さん写経が一段落した後に頂くお茶とお菓子、そしてついにはずむお喋りも楽しんでおられます。

皆様お忙しい中での参加ですから、少しでも暮らしの中の事やこころの健康にプラスになっていただけるようにこれからも続けていきます。

※毎月第二月曜日。午前十時から、お勤め法話・写経タイム約一時間、それからティータイムとなっております。お手本は、各自で選んで頂けるように用意しております。鉛筆でも筆ペンでも毛筆でも書きやすいもので写経をします。法話の中で、お経の意味も説明させて頂きます。参加費は千円となります。

御一緒にいかがでしょうか。





法語カレンダー

今回は、本願寺出版社の法語カレンダー、五月の言葉の説明をします。

十方の如来は
衆生を子のごとくに
憐念す

十方のあらゆる如来が、一切衆生をまるで一人子のように憐れみ寄り添い続けています。

浄土和讃「超日月光この身には 念仏三昧おしえしむ
十方の如来は衆生を 一子のごとく憐念す」の一文です。

超日月光―阿弥陀如来の尊称のひとつ

この身―勢至菩薩の事

念仏三昧―阿弥陀如来のみに心をかけ、一心一向に佛の

名号を称え、他の修行をしない事

おしえしむ―教えられた

十方―方角の四方八方に上下を加えたもの 全ての世界

という意味

如来―仏陀の尊称のひとつ

衆生―衆多（あまた）の生死を受ける者の意味、又は衆

多の生類の意味 一切の生類の事

一子―ひとり子

憐念―憐れみ念じる

超日月光と名づけられた阿弥陀仏は、この私の身（勢至菩薩）に、お念仏のお心を教えて下さいました。それは、十方のあらゆる如来が、一切衆生をまるで親のひとり子に對する愛情をもって憐れみ、寄り添い続けているのです。

親は、いつでも自分の子どもの安否を心配し、幸福を願いながら育てています。しかし、このたとえば、単なる親の愛情ではなく、自分と他者を分け隔てしないさとり境地が表れているのです。「すべて、この阿弥陀如来が引き受けた、必ず救う」と届けてくださっているのです。





信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

三月二十三日(土) 濱畑 慧僚 先生

*法話の後、お齋を一緒に

二十四日(日) 住職

両日とも午後二時より

第十八回 門信徒会総会

四月二十七日(土) 午後二時より

おつとめ・総会・法話

*門信徒の皆様、多くの参加をお待ちしております。

花まつり

四月四日(木) 午前十時より

*甘茶・灌仏・献花献灯などを行います。今年はマジックも。お孫さんや知人等お誘いください。

いたやど保育園の園児さん達と一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

門信徒便り

今年も初法座に沢山の方々がお参りくださいました。そこで皆さんに「今年の抱負」を書いていただきました。その一部をご紹介します。

☆新年にあたり信行寺様での一日、御住職の御法話をいただき、この良き新春大切な尊い一日。有難く思うことであります。

又々逢えます御法縁をたよりにして、よき一年を目標といたします。往生浄土 本当にめでたいことへの出発です。

